



100歳住宅®

超高齢社会の『暮らしやすさ』を インテリアから考える 指標づくり

JAFICA 超高齢社会をインテリアから考える暮らし住みやすさ研究会

松本佳津 関口和美 田崎由美子 白石絵理 田部亜紀 正木鈴子



INDEX

ちょイ＊ラボって・・・2

東北での暮らしをキッチンから考える 関口和美・・・4

インテリアに恋する 女たち 田崎由美子・・・7

親と子と暮らす 共存するインテリア 白石絵理・・・10

INTERIOR CARP 広島LOVE 田部亜紀・・・13

インテリアは心の処方箋 正木鈴子・・・16

参考書籍のご紹介・・・19

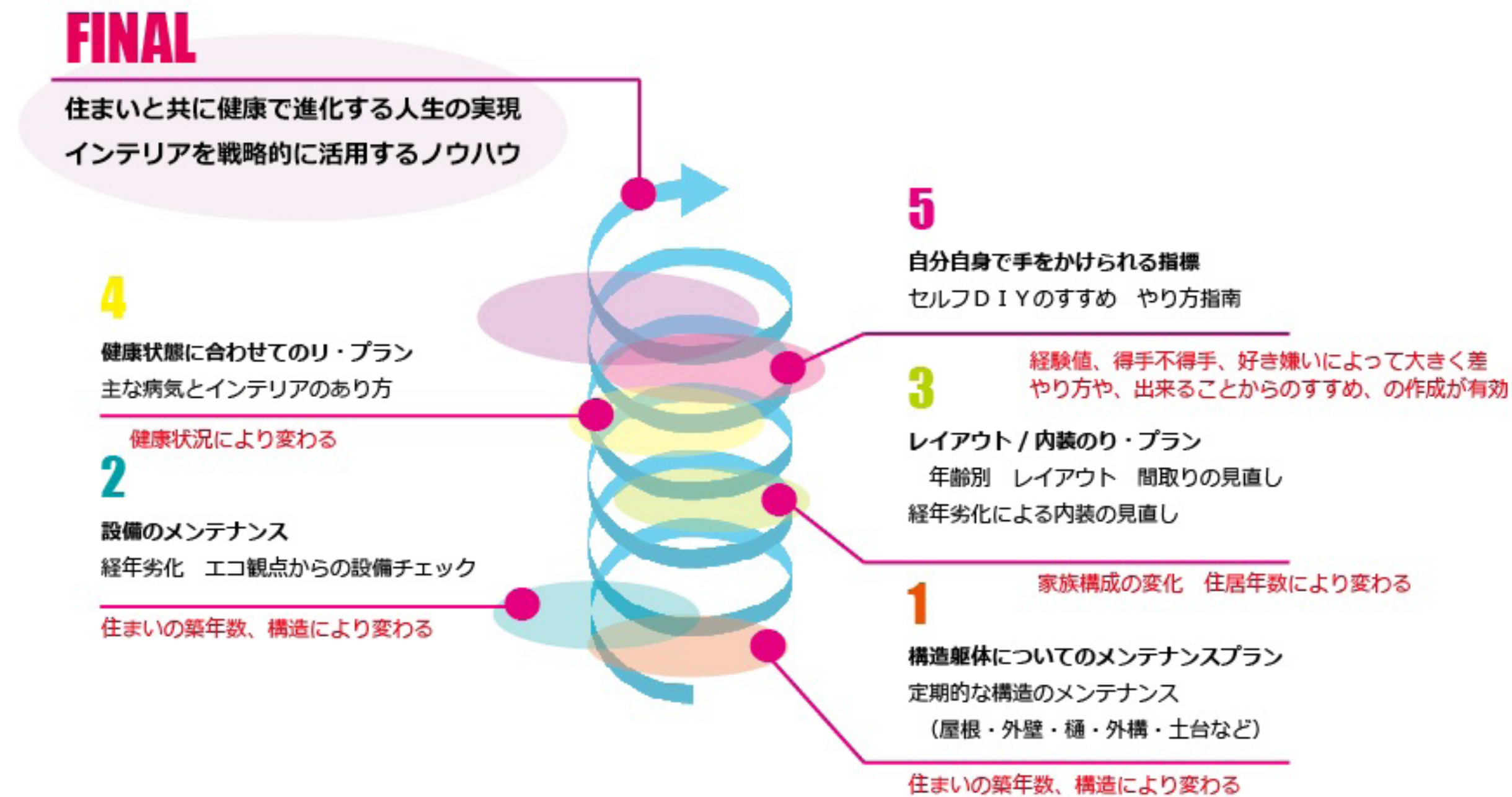
100 歳住宅®の指標を作ろう 松本佳津・・・20

アンケート・・・23

概要・・・30



100 歳住宅® の指標を作ろう



【ちょイ＊ラボ】って？

超（ちょう）高齢社会をインテリアから考える暮らし住みやすさ研究会（ラボラトリー）【ちょイ＊ラボ】

本当に暮らしやすい、心地よい、住みやすいとは？それを示す指標づくりを目標とする JAFICA(一般社団法人日本フリーランスインテリアコーディネーター協会)の研究会として2017年度発足しました。

100歳住宅®～超高齢社会の『暮らしやすさ』をインテリアから考える・・・インテリアのチカラに着目し、暮らしの本質を探究しようとする会です。

暮らしやすい、住みよい街などのランキングを見ると外的要因（交通、商店、公共施設など）による指標だけで、家の中にまで言及しているものは皆無です。超高齢社会について研究をしている東京大学においても一般住宅の家の中については、なかなかデータを集められない、とのお話をお聞きました。一般住宅においてはリフォームのすすめ、空き家対策という大きな概念に留まっています。

2007年生まれの寿命は107歳と発表されました。(LIFE SIFT (ライフ・シフト) -100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット より)

長寿大国日本は100年生きることを前提にすべてのことを

考えていかななくてはならない時代になりました。ここ1～2年で劇的に日本人の意識も変わってきています。しかし、住まいに関してはほとんどが手つかずという印象は否めません。今後、在宅介護や、終末期を家で迎えたい思いを、叶えるためにも100歳まで在宅を可能にする必要性を大いに感じています。さらには住宅がだぶつき気味である以上、今あるものを最大限に生かしながら、活用して行くことが不可欠です。

消費者からは、より自分たちに見合った具体的な内容を知りたい、情報が欲しいと望む声が多く寄せられています。実際、今回のアンケートにもはっきりとそのことが出ていました。

『100歳まで快適に暮らせる家』これを100歳住宅®とし、地域性を鑑みながら研究調査をすすめ、快適で豊かな人生を送るために、を目標に動きはじめました。